

なにわの伝統野菜2品目認証 生産者らが追加認証を申請

1面既報の通り、大阪府は昨年11月20日付けで「河内れんこん」と「海老芋」を新たな「なにわの伝統野菜」に認証した。なにわの伝統野菜は、①昭和初期以前(概ね100年前)から大阪府内で栽培され、②苗・種子等の来歴が明らかで大阪独自の品目・品種・栽培方法によるもの、又は府内特定地域の気候風土に育まれたものであり、栽培に供する苗、種子等の確保が可能で、③現在も府内で生産されている野菜を認証するもの。今回の認証を含め、計24品目が認証されている。

河内れんこん

湿地帯の粘土質の土壌が育む

「河内れんこん」は、肉厚で繊維質が少なく、もちもちとした粘り気があるのが特徴。当時生産が盛んであった茨田郡(現在の大阪市・寝屋川市周辺)は湿地帯であり、鉄分を多く含む



河内れんこん

(大阪府環境農林水産部農政室提供)

その後は、高度経済成長に伴い蓮畑は減少し、現在は門真市を中心に約2鈴での生産に留まるが、生産者らが消費者や大学、研究者などを巻き込みブランド化を図りながらその種を残し続けている。

今回の認証は、れんこん40軒を生産する(株)門真れんこん屋からの申請があり実現。同社

粘土質の土壌がれんこんの栽培条件に合い、盛んに栽培されてきた。

17世紀には門真市で生産されたれんこんが商品として流通していた記録があり、昭和20〜30年代には府内300鈴超で生産されるなど大阪に産地が形成された。

海老芋

土寄せや敷き藁で丁寧に栽培



海老芋

(大阪府環境農林水産部農政室提供)

富田林の「海老芋」は海老のように反った形、縞模様で、型崩れしにくく、ねっとりとし

中心に産地として成長し最盛期には生産面積が約200鈴にも及んだという記録がある。

た舌触りに優れているのが特徴。水はけの良い土壌のほか、頻繁な土寄せや保水力向上のために敷き藁を行う等特有の栽培手法で生産されている。

南河内地域における生産の始まりは100年以上前に遡り、その後、富田林市を中心に産地として成長し最盛期には生産面積が約200鈴にも及んだという記録がある。

古のれんこん農家に想い馳せ

奈良県・春日大社への奉納も

毎年12月には、奈良市・春日大社の例祭「春日若宮おん祭」で河内れんこんを奉納する。

これは江戸時代、門真から奈良にれんこんを出荷する際、生駒で盗賊に襲われることが続いた。そこで、その行路の安全祈願のため春日大社に石灯籠を寄

当日は、門真市北島のれんこん農家やそれを支援する関係者などで構成される行列が古式ゆかしい装束をまとい、奈良街道を練り歩いた。途中、故事に登場する石灯籠にあかりを灯し、大社内への若宮神社に地蓮を奉納した。

の中西正憲代表は「稲作に不向きなこの地で昔から生業として生産されてきたれんこんであり、その歴史も含めて評価されたことは非常に価値があり嬉しい」と話す。

19年前にこの取り組みを発案し実現させた中西正憲さんは「当時の人々への感謝を形にしようという想い

進し御用提灯を授かった、という故事にちなんだもの。

で毎年取り組んできた。これからも続けていきたい」と話す。(沼田)



昨年は12月1日に奉納を行った